
けいおん！ ～ほのぼのDays～

かわ唯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！ ～ほのぼのDays～

【Nコード】

N6258X

【作者名】

かわ唯

【あらすじ】

桜ヶ丘高校に入学したオリキャラ『櫻井 修耶』は親友と放課後ティータイムとともに学校生活を楽しく過ごす日常風景。

一応アニメに沿って進めるつもりです。

初投稿作品なので口調が変わったりするので

この作品は

女子校ではなく、共学校である。

オリキャラが出てくる。

初投稿作品のため、キャラの口調が変

などの注意点があるので

それらが嫌なら読まないことをオススメします。

プロローグ act1. (前書き)

どうも！！　かわ唯と申します！

この作品が初投稿であり、プロット・書き貯めも全く無いまま、ほぼ無計画で書きはじめた無謀な挑戦です！

小説を書くのは全くの初心者なので意見・指摘などあれば一言お願いします！

プロローグ act 1.

3月21日

今日は待ちに待った高校入試合格発表の日。

俺こと『櫻井 修耶』はその合格発表の結果を見に桜ヶ丘高等学校を目指して歩いていた。

「うゝゝん、無事に合格出来てるといいですねえ」

そんな呑気な事を言いながらふと、前を見ると

「おーーーーーい！修耶ーーーーっ！」

校門の前から俺を呼ぶアイツの名前は『木下 悠亜』
俺の親友であり、唯一の悪友でもあったりする。

「おっすゝゝ、悠亜」

「おゝう。」

：それにしてもやっぱり女子が多いな」

歩きながら話を続ける。

「仕方ないよ」。

今年から共学になったんだからな」

俺の受けた桜ヶ丘高校は去年まで元々女子校だった。

なぜそうなったのかはよく分からないけど
家から1番近いのが桜ヶ丘だったから受験を受けることにした。

「さっさと見てこようぜ」

「そうだね。早く家族に伝えたいし」

そう言っているうちに合格発表の掲示板の前に来た。

「うゝゝゝ、やっぱり緊張するな……」

仕方ないもんね。だってコイツバカだもん。
入試直前にまで泣きついてきたもんなあ。

「オイ、バカ言うな！」

しまった…口から出ちった。

「すいませんねえ。
じゃあ見よう！」

「ハア…そうだな。
さっさと見るか！」

…落ちてるかもしれないk「一言多いって!」

えっと、俺の番号は『253』で悠亜が『298』だったっけ？

えっと…

… ..

2
5
0

2
5
2

2
5
3

「あ、あつた」

手元にある受験番号ともう1度見比べる。

……本当に合格してた

「……よかった♪」

そうだ、悠亜はどこだろう？」

周りを見渡すと掲示板を見つめたままの悠亜の姿が

……もしかして落ちたのかな？

「悠亜！どうだった？」

「……た」

えっ？

「受かったた……」

なんだ落ちも「イヤッホーッ！受かったたぜー！！」

……。

トントン、と彼の肩を叩いて言った。

「なんだ、落ちてなかったんだ」

「ねえ俺親友だよね？」

何も悪いことしてないよね…？」

勝手に焦り始めたので悪いと思い、「冗談だよ」と言っ
て家族に知らせるためにそこで別れて帰ることにした。

プロローグ act1. (後書き)

…オリキャラ大変ですね

読み返すと「これ、どっちの台詞？」
と、訳分からなくなったり…

さて、次はオリキャラについて書きたいと思います。
指摘などよろしく願います。

プロローグ a c t 2. (前書き)

どうも、かわ唯です。

今回も短いですが読んでいて下さい！

唯の口調が微妙ですけど…

プロローグ a c t 2.

「ただいま♪」

リビングへ通じるドアを開けながら言うと、

「あら、おかえり。
無事合格できた？」

と返ってきた。

返事したのは僕の母親『櫻井 美稀』。

中学の時に無理矢理女装させられた時は姉妹にしか見えないほど若いと悠亜が言っていた。

「うん。なんとか
悠亜も合格したしね」

「そう。よかったわね」

合格したことを伝えるとそのままりビングを出ようとした時

「あ、今日は知り合いと高校合格した記念に食べに行くから用意してね♪」

「りょうかい」

短い返事をしてリビングを出て部屋へ向かった。

（そういえば…知り合いって誰だ？）

そんなことを思いながら待ち合わせしている店へ母と向かった。

店へ入ると、周りを見渡している。
どうやら知り合いを探しているようだ。

「櫻井さ〜ん、こっちですよ〜」

と、手を振る人を見付けた。
あれが母の知り合いかな？

先に行く母に付いて行くと、その横に座っている2人の女の子が視界に入った。

まあ、とりあえず……

「初めまして〜櫻井 修耶です〜」

初対面の人に挨拶は基本だよね…確か。

挨拶を終えると最初に髪をピンで留めてる女の子が立ち上がり、

「平沢 唯です！よろしく〜えっと…修君！」

おお〜！いきなり新しい呼び名だ。

入れ替わるように今度は後ろ髪をリボンで束ねている女の子が

「どうも、平沢 憂です。よろしくお願いします！修耶さん」

…礼儀正しいなあ。

全員の挨拶が終わったところで席につき、注文した所で母親同士で話始めたので平沢姉妹に話し掛けた。

「一応聞くけど、名前は呼び捨てでもいい？

二人共名字が平沢だし」

「んぐっ…大丈夫だよ。私も修君て呼んじゃってるから」

「私も大丈夫ですよ。

あっ…お姉ちゃん、口にケチャップ付いてる。
拭くからジツとしててね」

「ありがと、うーい」

：姉と妹の立場が逆のような気がするけど、そんなことは抜きで
なんか：癒されるなあ

「修耶さんは何か部活はやるんですか？」

今度は憂ちゃんから質問がきた。

「考えてるのは合唱部かな。歌を歌うのが好きだし…。
唯は何に入るのか決めてる？」

「私はまだ決めてないんだ。今まで何もやらなかったから高校生
になったら何かやりたいんだけど…」

中学の時から部活やってなかったんだね…

「高校に入学してから考えても遅くないからじっくり考えてみれば
？」

「おおっ！流石修君！頑張ってみるよ！」

「頑張って！お姉ちゃん！」

「その調子、その調子♪」

やっと来た料理を食べながらいろんな話をしたり聞いていた。

「憂ちゃんは中学3年になるんでしょう？」

「だとしたら高校は桜ヶ丘受けるの？」

「そのつもりですけど…」

「私の成績で受かるのかなっておもっちゃって」

一応憂ちゃんの成績を聞いてみたが、普通に勉強ができるらしく合格できるかはこれからの勉強次第だ、と伝えた。

「だって…」

「（成績で2が付いてるアイツが頑張って桜ヶ丘合格できた訳だしなあ）」

「とりあえず勉強で分からない所があるなら僕が教えてあげるよ」

「あっはい、お願いします」

「修く〜ん、私にも勉強教えて〜」

唯は憂ちゃんに教える側ではなく、教わる側らしい。

「そろそろ帰るわよ〜」

うちの母親の一言でみんなで帰ることになり、今更知ったが平沢姉妹の家は僕の家の四つ隣ということを知った。

「ねえ修君。メルアド交換しよ〜」

「私も交換してもらっていいですか?」

拒否する理由も無いので「いいよ」と言ってケータイを取り出した。

「いくよ、ほいっ！」

「次は私です。えいっ！」

所々似てるんだよねあの二人。

そう思ってる間に妙な掛け声と共に二人のメルアドが送られてきた。

「じゃあ修君、バイバイ！」

「修耶さんさよなら！」

「次は入学式で会おうな」

平沢の家の前で別れて自分の家へ歩き始めた。

「……ん？メール来とる」

風呂から上がりケータイを開くと1件のメールが来ていた。
送ってきたのは憂ちゃんだった。

メールには、

「今日は楽しかったです♪
お姉ちゃんと一緒のクラスになったらよろしくお願いしますね」

……一緒のクラスになるのかねえ〜
なんだか心配になってくる

「そんなときはそんときで教えればいいか〜」

やる事もなくベッドに横になっていると、いつの間にか寝てしまった。

プロローグ a c t 2. (後書き)

次はたぶん

オリキャラを書くと思います。

指摘等あればよろしくです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6258x/>

けいおん！～ほのぼのDays～

2011年10月20日11時13分発行